

# 拙堂會報

## 第8号

2020年7月1日発行

発行所  
齋藤拙堂顕彰会  
理事長 飯田 俊司  
津市一身田豊野1406-197

## 新型コロナウイルス問題と温故知新

顧問 齋藤 正和



中国武漢発の新型コロナウイルス問題は二〇二〇年三月時点において、何時終息するか分からない世界的大問題になりつつある。このような問題は形や被害の度合いこそ違え遠い昔から何度も発生していたとみてよい。齋藤拙堂の生きていた江戸時代末期を例にとれば、天保の大飢饉やロシア・イギリス・アメリカからの外圧がそれにあたるのではあるまいか。自然災害や

外敵襲来といった危機をどう管理し、どう乗り切るか。そのために拙堂の遺訓という「故」を温ねて、現在の問題解決に生かす、即ち新しきを知ることは充分意義のあることだと思うのである。ウイルスは外国からの伝染であるから、これを防ぐのは一種の国防である。拙堂は「海防策」を著して、国防について政策提言をしているが、それを約言すれば「おじけ心で根柢のない恐怖をするな。しかし粗雑な心で高をくくり油断をしてはならない」ということになる。 「彼を知り己を知らば百戦して危うからず」であるから、まず、危険の原因を徹底的に調査することが肝心である。拙堂の古漢語力は抜群であったので、彼は当時の東アジアの共通語であり且つ西洋語文献の翻訳用語であった古漢語を

使った諸文献を縦横に読みこなし、そこから得られる情報を最高度に活用して政策提言をしたのであった。今日で言うならば、彼即ち新型コロナウイルスの分子構造、突然変異を起す頻度や速度、感染力、感染環境、感染地域、人類の持つ殺菌能力・治療薬やワクチンの開発状況等々の情報と、我が国の現状を迅速且つ正確に把握して対策を立てることであろう。

拙堂の時代、国防対策を立てて実行するのは封建社会の「士大夫」であったが、拙堂は彼ら士大夫の教育者であり、オピニオンリーダーであった。士大夫は今日でいえば政治家、官僚である。拙堂は士大夫の庶民に対する責務を説いたが、今日の「士大夫」もその責務を拙堂に学んでほしい。拙堂は、また、文武の重要性を強調した。拙堂のいう「文」は美文・名文に止まらず、「情報」を意味する。「武」は軍事力に止まらず「政策実行」を意味する。その上、彼は文武は表裏一体だと説いた。そのような「文武」の遺訓からも多く学ぶことができると考えるのである。

新型コロナウイルス問題と温故知新	拙堂塾に参加して	4
齋藤正和 1	齋藤拙堂顕彰出張講座開催される	5
有造館創設・拙堂来勢二百年	第三回齋藤拙堂顕彰小中学生書道展	5
加藤龍宗 2	俳句、短歌応募作品選考結果	7
飯田俊司 2	令和二年度拙堂会絵巻報告	9
感染症	追悼の辞	10
藩校有造館建学の流れ―その三		
中川植一 3		

# 有造館創設・

## 拙堂来勢二百年

会長 加藤 龍宗



浪をこえ帆立てて来たる五瀬の浜

うまし国なり青雲の地は、

龍宗

令和二年も早や半歳が過ぎようとしている。目前に八月六日広島忌、九日長崎忌を迎える、七十五年目の忘れてはならない事である。二発の原爆によって一瞬のうちに三十数万人の命を奪い、憎き戦争によって三百有余万人の尊い生命が奪われた。この事を決して忘れてはならない。そんな熱い夏ではあるが、拙堂を愛する我々にとって二百年前に思いをいたす年でもある。それは有造館が創設された年であり、拙堂が津に来た年でもある。有造館は津藩に設けられた「学問所」であった、時の藩主高兌公の手により

創られた。明治四年の閉校まで僅か五十一年間ではあったが、世に文藩有りと評された。拙堂は二十三才、古賀精里に学びおえ、句読師（教官）として採用され津に来ることとなった。残されている多くの詩の中から、最も始めの頃の作である、「江戸より津に遷り城南に卜居す」と云うのがある、この詩から青雲の志に燃え、津に移り住んだ当時の想いが感じ取れる、小生の訳詩をご賞味頂けばご理解いただけると思う。

江戸より津城に遷り城南に卜居す 齋藤拙堂

胸襟襟去す 大部の塵  
宅を問えは 神風五瀬の浜  
食は言に 魚無からんや滄海に近く  
居は唯だ 竹有りて碧山に隣す  
人は 朝旧の如く心晴む  
地は 郊村に接して風俗醇なり  
四壁頗る寛く 何物をが貯い  
一船の 書画運く身に晴う

江戸の 塵を洗い流し  
悠かなる 伊勢の浜に来たる  
食は豊かに 魚は美味し  
居は閑にして 碧麓に在り  
人は 分け隔てなく心通わせ  
町は 田舎にて情深し  
広い部屋には 何も無く  
船で運びし 書画のみ有り  
龍宗訳詩

会員の皆様のご健勝と弥栄を祈念致します。

# 感染症

理事長 飯田 俊司



中国の湖北省武漢市を発生源とする新型コロナウイルス感染症が瞬間に全世界に拡散して、三月十一日には、WHOが「パンデミック」を宣言するに至った。現在も世界中に感染拡大が続き各国は感染予防、人命救助などその対策に追われている。既に経済、社会に多大な影響が出ており、事態は深刻になってきている。感染症は人口が増加し、人々が密集して暮らすようになって、初めて出現したが、人類と感染症の戦いの歴史は古い。

ペスト（黒死病）は六世紀半ば頃最初にヨーロッパに現れたが、十四世紀には全ヨーロッパに拡大し、人口の三分の一が亡くなったと言われる。また、南北アメリカの先住民は十六世紀の大航海時代にヨーロッパ人によって持ち込まれた天然痘、麻疹、結核、などの感染症により、

人口の八割を失った。特に、インカ帝国やメキシコのアステカ帝国はスペイン人に持ち込まれた天然痘で奪われた命の方が銃や剣の犠牲性になるよりもはるかに多く、遂に滅亡させられた。また、一九一八年〜一九一九年のスペイン風邪(患者は世界人口の二五〜三〇%、死亡者四、〇〇〇万人)、二〇〇九年の新型インフルエンザ(二万八〇〇〇人以上が死亡)、結核(一九三五〜一九五〇年日本の死亡原因首位)、ハンセン病、コレラ、近年流行したSARS(重症急性呼吸器症候群)、MERS(中東呼吸器症候群)、エボラ出血熱、エイズなどの感染症に人類は多大な犠牲を払って来た。

拙堂は生後間もない頃天然痘に罹り、顔にあばたが残った。天然痘に感染すれば、後遺症として失明するかあばたを残すかで、死も後遺症も運が良い場合だけ免れた。源実朝、豊臣秀頼、吉田松陰、夏目漱石はあばたが残り、伊達政宗は片目だけ失明した。

一七九六年エドワード・ジェンナーが種痘を發明、日本ではようやく一八四七年佐賀藩蘭医榎林宗建が種痘に成功した。

拙堂は種痘の導入には人一倍熱心で、一八五〇年孫娘の須賀が誕生した翌年、京医の桐山元沖から種痘を入手、種痘を施してもらった。また、一八五四年に種痘館を建設、人々に安心して種痘を受けようように働きかけた。これにより、藩内の人々は殆ど天然痘に罹る者がなかった。天然痘の根絶

が宣言されたのは一九七九年になってからである。感染症の蔓延が国家や民族を滅ぼすこともあることは歴史が物語っている。人類と感染症との戦いに終わりはない。一日も早いワクチン、治療薬の開発が望まれる。

藩校有造館建学の流れ―その三

顧問 中川 禎二



有造館の教育方針と督学齋藤拙堂の思想

今回は藩校創設の時から教員であり、講官、藩主の侍講、郡奉行を経て第三代督学となった拙堂が有造館の教育を盛んにし「天下の文藩」と言われるまでにした「有造館の教育方針と齋藤拙堂の思想」について、私の思いも入れて述べることにしたい。

有造館の教育方針

津藩学の学統は藩初以来、朱子学、陽明学、

古学、折衷学等多岐にわたるものであったが藩校においては、創立期に伊藤東涯の高弟である奥田三角とその門弟たちが奉ずる古学が最有力であったため、明治初年に藩校が廃校になるまで藩校儒学は古学中心であった。それは古学の学説が安易で親しみやすく、藩士上下ともにこれを好んだからである。

藩校教育の根本方針は初代総教の藤堂光寛が撰した学則に示されている。その学則において藩校における教書解釈は、漢唐注疏によるが必ずしもこれを固執せず宋明学も必要により取り入れる旨謳われている。

齋藤拙堂の思想

拙堂は昌平黌で古賀精里に学んだ朱子学者である。従って朱子学の思想が根本にあるが、藩校の古学を基礎とした折衷主義に敢えて反対せず自説を固執していない。むしろ「國校四極説」という学則付属文書を發表して学則の「文武忠孝」という四項目を敷衍して学則の補強を図っているのである。拙堂は学則の精神に則り、文武兼学、道芸兼修を藩士に説き教育した。具体的に言えば、文を学問、武を経世、道は倫理道德、芸を実務技術と言ひ換える事もできよう。そして文と武、道と芸は二にして一、即ち表裏一体であると言うのである。この考え方は藩校の学則にあり、また拙堂の活動のあらゆるところに貫かれている基本的な考え方と言える。

## 拙堂の思想の集約「士道要論」

江戸時代初期にあっては、戦国時代の粗暴な武士に礼節を教える文の教育に重点がおかれた。二百余年の泰平が続いた結果、武士は文弱になった。偶々外圧を受ける時代になり武士達に気概節操が求められるようになった。拙堂は気概節操は私欲に覆われない心から生じるとした。そのような心はどうしたらもてるか。それは経書によって中国の古聖人の言行を学びそれに習うことによって可能であると説いている。聖人の教えは普遍性があると信じており藩校の儒学に基礎を与える考え方である。

## あとがき

今回は教育方針や思想を取り上げましたので少し理論的になりました。内容は拙堂塾・齋藤正和先生に監修頂きました。

続きはまた次号で



桜満開の津偕楽公園  
「拙堂齋藤先生碑」  
R2・4・6 byT、N

## 拙堂塾に参加して

## 伊藤 英次

拙堂塾へ参加して間もない私に会報への投稿をと言う話を聞いた時は心底びっくりしました。そもその参加の動機は軽い気持ちで齋藤拙堂のことがもう少し知りたいと思ったからです、かと言って漢文や漢詩が特別好きな分ではありませんでした。毎回齋藤正和先生の詳しく丁寧な講義を聞いていて少しずつですが理解が出来てきたのかと思います。

拙堂の海防策や救荒事宜などは、今の世の中でも考えを巡らせたり参考にすることが、あるのではないのでしょうか。

拙堂が晩年過ごした茶磨山荘の講義を聞いてから、実際現地に行ってみますと、昔の面影はありませんが、その時代を想像しますと、歴史のロマンのようなものが浮かんでくる様な気がします。

古賀精里に学び高猷公に重用され後に頼山陽らとも交流した拙堂のことを、これからも少しずつ学んでいきたいと思えます。今後もよろしく願います。

## 築田 和郎

齋藤先生との奇遇から拙堂先生の事蹟を学べるようになりました。安岡正篤先生は郷学(郷土の先人の学問)を活かす事の重要性を繰り返し説いて居られます。この歳になって拙堂先生とご縁が出来て、郷学の先師として学べる機会に恵まれた事を感謝して居ります。

まして拙堂研究者でしかもその末裔の齋藤先生のご講義を拝聴できるのは正に天恵に等しいことで御座居ります。

恥ずかしながら私は歴史に疎く藤堂高虎さんの名前くらいしか知らず、それ以上の関心もありません。拙堂先生の思想学問に触れて見ると、幕末の漢学者であるにとどまらず、現在のわが国の喫緊の課題の一つである国防問題についても対処すべき策を論じて居られます。拙堂先生が如何に偉大な方であつたかに感じ入る次第です。

わたしは齋藤先生の豊かな博識のご講義に目を開く思いをしながらも、時には難解な内容に悩んだりして参学しているのが実状です。それでも先生のご講義を傾聴せずに居れないのは、先生が情熱を以て真実を教えて下さっているからだと思ふのです。そのお教えを単に知識として学ぶのではなく、活学の糧として一燈照隅に生かしたいと存じます。凡夫で御座居りますが今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 齋藤拙堂顕彰

## 出張講座開催される

齋藤拙堂を広く知って頂くことを目的に新規事業として出張講座を開催しました。

齋藤拙堂の偉業を子供たちに知ってもらい、とと共に学ぶことの大切さと郷土愛を深めることを目的とし講座を実施しました。

子供達から「拙堂のことがよく分かった」「津の偉い人ということが理解できた」「養正小学校の子供からは「養正小学校のルーツが分かった」など反響はあった。

本事業については、更に子供たちに知って頂くことが大事であり継続していきます。

一、日時 令和元年十一月二十二日

場所 津市立養正小学校  
参加者 六年生 四十七名

二、日時 令和元年十二月三日

場所 津市立西橋内中学校  
参加者 一年生 百十二名

三、日時 令和元年十二月二十日

場所 津市立南立誠小学校  
参加者 六年生 八十六名

内容(四十五分)

- ① 校長挨拶
- ② DVD放映(齋藤拙堂とは)
- ③ 講義 「齋藤拙堂が学んだこと」
- 講師 拙堂会顧問 齋藤正和先生
- ④ 質疑応答



西橋内中学校



南立誠小学校



養正小学校

## 第三回齋藤拙堂顕彰

### 小中学生書道展

稲垣 武嗣

皆様ご存知のように本年は「新型コロナウイルス発生・大感染」という異常事態が起こりまして世界中に大混乱を招いています。そのような中で津市からも「不特定多数が集まるイベントは出来るだけ自粛してほしいとの」提示がなされ、拙堂会でも幹部役員と相談の結果、諸般の状況を考え、やむを得ず展覧会全てを中止することにいたしました。

出品していただいた生徒さんはもとより、その指導に当たられた先生方、保護者の方々に大きな失望の念を与えましたことに心よりお詫び申し上げます。

このような異常事態の中でも、幸いなことに入賞者の方が既に決定していたことがせめてもの救いとなりましたが、電話等で中止の件を連絡した時、生徒さん本人よりも先生や保護者の方が事情を理解しながらも残念そうな対応に心を痛めました。

今後はこのようなことが二度と起こらないように祈っています。

出品概要は、小学生三百二十九名、中学生六十九名、合計三百九十八名で入賞者総数は五十

六名でした。

入賞された方には郵送等で賞状と副賞をお届けしました。入賞者の方は別記の通りです。

尚、来年の第四回展は、令和三年三月十二日(金)から十四日(日)の日程で開催することが内定していますので今回以上の多くの応募を期待したいと思います。

よろしくお願い致します。

小学生の部

津市市長賞

森田 瑚都 松阪市立港小学校六年

津市議会議長賞

野島 葉 津市立豊津小学校三年

津市教育委員会教育長賞

宮武 百花 津市立西が丘小学校四年

齋藤拙堂顕彰会会長賞

赤尾 衣織 津市立豊が丘小学校一年  
鈴木 奏美 津市立高野尾小学校二年  
横山 颯祐 津市立立成小学校二年  
三井 遥香 津市立南立誠小学校三年

特選

市川 湊介 津市立片田小学校三年  
平手 綾華 津市立立成小学校四年  
岡田 珠和 松阪私立掃水小学校四年  
小島 由菜 松阪市立徳和小学校四年  
市川ひなの 津市立片田小学校五年  
岩崎 舞羽 津市立豊が丘小学校五年  
伊藤 来瞳 松阪市立天白小学校六年  
岩佐 琉嘉 津市立高茶屋小学校六年  
羽田 琉華 津市立南が丘小学校六年

田原 悠菜 津市立南が丘小学校一年  
森本 愛久 学校法人津田学園小学校一年  
廣田 蝶羽 松阪市立天白小学校一年  
平岡 希望 津市立豊が丘小学校二年  
濱口 史緒 津市立立成小学校二年  
渡邊 真央 鈴鹿市立庄野小学校二年  
橋本 羽桜 松阪私立掃水小学校二年  
坂本 朱嶺 津市立安東小学校三年  
村田 樹仁 松阪市立第五小学校三年  
阪 佳歩 津市立豊津小学校三年  
濱田 乃愛 津市立豊津小学校三年  
下元 勇輝 津市立栗真小学校三年  
中川 華恵 松阪市立徳和小学校四年  
松村 彩葉 松阪市立山室小学校四年  
八十島史琉 津市立立成小学校四年  
小野 祐佳 津市立立成小学校四年

中学生の部

津市市長賞

西田 洋輝 津市立桃園小学校六年

松永 彩愛 津市立朝陽中学校三年

津市議会議長賞

小野 花華 津市立西郊中学校一年

津市教育委員会教育長賞

小瀬古 華 学校法人三重中学校二年

北河 昊 松阪市立花岡小学校四年  
河口 絢香 津市立片田小学校五年  
真川 翠 津市立村主小学校五年  
出口 ゆい 津市立立成小学校五年  
坂本 絢香 津市立安東小学校五年  
渡邊 史結 津市立立成小学校五年  
大平 陵輔 明和町立修正小学校五年  
安村 美海 鈴鹿市立明生小学校六年  
前川 心優 津市立豊が丘小学校六年  
阿部 真悠 松阪市立天白小学校六年  
木谷 綾葉 松阪市立西黒部小学校六年  
丸山 奈子 津市立南が丘小学校六年  
西田 洋輝 津市立桃園小学校六年

齋藤拙堂顕彰会会長賞

- 福島 沙樹 津市立豊里中学校三年
- 伊藤 真央 松阪市立三雲中学校二年
- 田幡 空夏 学校法人セントヨゼフ女子学園中学校年
- 三井 愛弓 津市立橋北中学校
- 取嶋 綾音 玉城町立玉城中学校一年
- 小川 千晶 学校法人三重中学校一年

俳句、短歌応募作品  
選考結果

「第四回齋藤拙堂顕彰俳句短歌の募集は、俳句百四十八句、(応募者数三十四名)短歌三十七首(応募者数九名)の作品が寄せられ、俳句は山崎満世、短歌は中川佐和子、の選により津市長賞をはじめ、以下の作品が受賞されました。

俳句の部

津市市長賞

次の風までの余力や木の葉落つ

松阪市 瀬川 友子

選評 ひとつぶきの風に散った木の葉だが、ま

特選

- 中川 友梨 津市立朝陽中学校一年
- 藤井 未来 津市立豊里中学校二年



た継ぎの風までの力を余し枝にしがみついている。  
木の葉への視線が鋭い句

津市議会議長賞

露けしや遠訓に学ぶ令和の世

津市 白木ひろ海

選評 令和になった今こそ拙堂の教えを学ぶべきではないのか。きらめく露のしつとりとした中での感慨。露の世という捉え方も奥が深い。

津市教育委員会教育長賞

公園の野鴨せこせこ師走月

津市 井村 晃市

選評 水べりの鴨が落ち着かないが、楽しそうにも見える。せこせこの措辞が師走の気分を表現していてリアルでもある。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

拙堂も好みし伊勢の初鰹

津市 湯浅 重好

選評 拙堂翁の好んだものはいろいろ考えられるが、初鰹だろう。伊勢の言葉を入れることにより句に弾みと明るさをもたらした。

佳作

津まつりを待つ子の憂しや颱風園

津市 長井 順子

借糸という名に集ふ春の宵

津市 澤口 真理

鳴子手に安濃津よさこい秋果てる

津市 松井麻璃奈

百舌鳥ないて拙堂墓所の木の間かな

津市 内田 寿子

寒昂向かいは知多の灯ぞともる

津市 種田 啓子

お七夜の僧も出店を覗きけり

津市 奥山 功

拙堂翁遺筆温か秋深し

津市 岩脇美甫子

拙堂も訪ねしこぶ湯木の实降る

津市 岩脇久美子

登り雨下りは晴れて梅見入る

津市 久松 敬和

照紅葉拙堂おはす塔世山

津市 宮下満寿美

短歌の部

今回の応募作品は、拙堂自身のこと、入得門のこと、津の街のことなどについて、それぞれ印象深い作品が多く見られました。

次の回もまたより良い作品の参加を期待致して居ります

津市市長賞

月ヶ瀬にたゆることなき梅の花

拙堂あゆみし道今に見ゆ

伊賀市 世古 浩

選評

梅の名所であるあの月ヶ瀬を拙堂も歩いたであろうと思いつつ今作者自身も歩いて拙堂に思いを馳せている。

津市議会議長賞

津城址をめぐりて立てる冬木立に

添ひて咲きをりつはぶきの花

津市 山下 幸子

選評

津城址をめぐりつゝ作者の眺めた光景を端的に詠む。冬木立とつはぶきの花の対比が鮮やかで印象的である。

津市教育委員会教育長賞

小春日の窓辺に差し込む図書館の

昔日忍ぶ有造館跡

津市 井村久仁子

選評

図書館の窓辺に立ち在りし日の有造館

を偲ぶ作者の思いが一読して伝わってくる。

齋藤拙堂顕彰会会長賞

滔々と歴史を刻む入徳門

今尚息吹く拙堂の教え

大津市 森永 昌雄

選評

当時の人々もくぐっていたであろう入徳門。今も延々と続く拙堂の教えを胸に刻んでいる作者がみえる。

佳作

見慣れたる唐人踊りしやご馬に

今年も元氣賞ひてをりぬ

津市 若林 照子

めらめらと登る太陽

出艇のヨットは頭に火をつけて行く

津市 中川 政郎

## 令和二年度拙堂会総会報告

新型コロナウイルスの感染防止対策として、皆様の健康安全を図ることを最優先に考え令和二年度の総会の議題は、書面による審議としました。

議題の賛否は六月六日に集計のところ、各議題は賛成多数で承認可決されました。以下、これを要約して報告します。

## 令和元年度事業報告

## 1. 拙堂會報発行

六月一日 第六号発行  
十二月一日 第七号発行

## 2. 齋藤拙堂顕彰出張講座の実施

(講師 齋藤正和顧問)  
養正小学校 十一月二十二日  
西橋内中学校 十二月三日  
南立誠小学校 十二月二十日

## 3. 拙堂塾の開催

(講師 齋藤正和顧問)  
場所 橋北公民館  
第一回「伝記」 六月二十三日  
第二回「拙堂の家系と生い立ち」 七月二十八日

## 第三回「拙堂と武士道」

八月二十五日

## 第四回「津附近を描いた拙堂の文章」

九月十五日

## 第五回「津を詠む詩」

十月二十七日

## 第六回「猪飼敬所に与えた書を読む」

十一月二十四日

## 第七回「救荒事宜」

十二月十七日

## 第八回「海防論」

一月二十日

## 第九回「茶磨山荘と詩文」

二月十六日

第十回以降は新型コロナウイルス対策の為中止となりました。

## 4. 齋藤拙堂顕彰講演会の開催

## 第一回「齋藤拙堂の人物と事績」

講師 齋藤正和顧問  
五月二十三日 橋北公民館

## 第二回「齋藤拙堂に学ぶ」

講師 齋藤正和顧問  
十月二日 中央公民館

## 第三回「齋藤拙堂と月ヶ瀬の観梅」

講師 加藤龍宗会長  
十一月十五日 津南防災

## 5. 齋藤拙堂顕彰会「第4回俳句・短歌」の募集

(十月一日～十二月十日)  
本紙七～八頁をご参照ください。

## 6. 齋藤拙堂顕彰会・第3回小中学生書道展作品募集

(十一月一日～一月十九日)

本紙五～七頁をご参照ください。

作品展示会三月六日～八日、表彰式三月八日は、新型コロナウイルス対策のため中止となりました。

## 7. 齋藤拙堂顕彰第四回吟道大会と俳句・短歌の表彰式は三月二十二日開催の予定でありましたが、新型コロナウイルス対策のため中止となりました。

中止となりました。

## 8. インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホームページ」は十一月に開設

## 9. 会員増強については、事業の拡大・新規事業の取組等必要な資金調達を目的に会員の増強に取り組みました。団体会員二十七社

三十三口(六社八口の増加) 個人会員一七五人(一八一・五口(ピーク時一八三人一八九・五口)(六〇人六五・五口の増加となりました。)

## 令和元年度決算報告及び監査報告

決算報告 収入合計 七五五、七六〇円

支出合計 七五五、七六〇円

(事業費五〇三、〇五九円・運営費一七八、四二七円・繰越金七四、二七四円)

監査報告 会計は適正に処理されている。

監事 菅野克也・國分昭男

令和二年度事業計画

1. 拙堂會報発行

七月一日 第八号

十二月一日 第九号

2. 齋藤拙堂顕彰出張講座の実施

3. 拙堂塾の開催

4. 齋藤拙堂顕彰会「第5回俳句・短歌」の募集期間

令和二年十月一日（木）

～十二月十日（木）

5. 齋藤拙堂顕彰会・第4回小中学生書道展」作品募集

令和二年十二月一日（火）

～令和三年一月十六日（土）

書道展

令和三年三月十二日（金）

～三月十四日（日）

リージョンプラザ

6. 齋藤拙堂顕彰第5回吟道大会と俳句・短歌表彰式

令和三年三月二十一日（日）

場所 中央公民館ホール

7. インターネット「齋藤拙堂顕彰会ホームページ」の更新

令和二年度予算

収入合計 八九〇、二七六円

支出合計 八九〇、二七六円

（事業費五七五、二〇〇円・運営費一五八、〇〇〇円・繰越金二五七、〇七六円）

会員の増強に関する件

事業の拡大・新規事業の取組などに必要な安定した資金の調達を目的に、会員の増強に取り組みます。目標団体三先増（総数三十先）個人三十人（総数二〇〇人）

新規事業「拙堂著作の翻訳事業」に着手する件

齋藤拙堂著作の漢文・漢詩・古文の翻訳事業の準備

新理事と事務分担及び新監事に関する件

退任する理事四名の補充、新規事業を担当する新理事の選任二名及び監事の交替と新規執行理事の指名をする。

新理事 澤口 真理（漢文翻訳）

村主 英明（津市広報）

高岡 弘典（漢文翻訳）

田矢 修介（津市広報）

新監事 米田 豊山

現理事の事務分担追加

小林 貴虎（三重県広報）

水谷 忠文（総務）

退任する理事

岡 重夫

中川佐和子

米田 豊山

三藤 治喜

退任する監事

菅野 克也



追悼の辞

拙堂会理事、三藤治喜様には令和二年四月二十九日ご逝去されました。ここに生前のご厚情に感謝申し上げますと共に謹んで哀悼の意を表します。三藤様には、理事として大変お世話になりました事、衷心より御礼申し上げます。